

|                  |   |      |   |                         |       |
|------------------|---|------|---|-------------------------|-------|
| 開講期              | 2026年度前期  |      |   | 単位数                     | 2.0単位 |
| 科目[授業]名          | 4326 暴力論  |      |   | 開講形態 (隔週<br>偶数 = 隔週2コマ) | 週間授業  |
| 種別               | なし  |      |   | 定員                      |       |
| 履修可能学年           | 全学年履修可  | 重複履修 | ○ | 全学開講                    | ○     |
| 曜日時限             | 水曜2限  |      |   |                         |       |
| 教室               | J304教室  |      |   |                         |       |
| 代表教員             | 上野 俊哉   |      |   |                         |       |
| 担当教員             | 上野 俊哉   |      |   |                         |       |
| テーマと到達目標         | 「暴力をふるってはいけません」と言われるけれど、軍隊やヤクザは殺しあうし、制度の暴力もあれば、ことばの暴力だってある。統治（支配する）権力がふるう暴力と、抑圧され、差別され、虐げられた者がぎりぎりのところで、やむにやまれずふるう暴力は同じものか、違うものか？そのあたりからじっくり考えたい。   |      |   |                         |       |
| 概要               | 暴力についてこれまで哲学や文化人類学、社会学はどのようにとらえてきただろうか？ 暴力論の系譜を左右の政治的立場にかかわらず、こまかく、横断的に概観しておこう。これから戦争する気いっばいの政府のもとでの教養と正気の保ち方を学び逸れる。  |      |   |                         |       |
| 対面科目/オンライン科目     | 対面科目  |      |   |                         |       |
| 授業計画             |   |      |   | 担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）  | 授業方式  |
| 第1回              | 暴力はいけないのか、本当にふるってはいけないのか？   |      |   |                         | 対面授業  |
| 第2回              | からだの暴力、仕組みの暴力、ことばの暴力 物理的暴力、構造的暴力、象徴的暴力  |      |   |                         | 対面授業  |
| 第3回              | ヴァルター・ベンヤミン（文学者、批評家）の「暴力批判論」の大切さ  |      |   |                         | 対面授業  |
| 第4回              | ジョルジュ・ソレル（哲学者、思想家）の「暴力論」の深さ   |      |   |                         | 対面授業  |
| 第5回              | ピエール・クラストル（文化人類学者）、「国家に抗する社会」1  |      |   |                         | 対面授業  |
| 第6回              | ピエール・クラストル（文化人類学者）、「国家に抗する社会」2  |      |   |                         | 対面授業  |
| 第7回              | ジョルジュ・バタイユ、戦争、争い、抗争を埋めこんだ経済や犠牲、贈与   |      |   |                         | 対面授業  |
| 第8回              | ルネ・ジラルド、模倣する欲望にはじまる暴力、暴力と聖なるもの  |      |   |                         | 対面授業  |
| 第9回              | ジョルジュ・アガンベン 殺すことと生かすこと  |      |   |                         | 対面授業  |
| 第10回             | ミシェル・セール、ブリュノ・ラトゥール、世界は暴力と闘いでできているのか？   |      |   |                         | 対面授業  |
| 第11回             | ジャン・ボードリヤール、暴力とテロリズム  |      |   |                         | 対面授業  |
| 第12回             | ドゥルーズ&ガタリ、戦争機械こそが国家による戦争を止めることができる  |      |   |                         | 対面授業  |
| 第13回             | ファシストや極右の暴力論のどこが面白いのか？ カール・シュミット  |      |   |                         | 対面授業  |
| 第14回             | ファシストや極右から暴力論を学ぼう 北一輝、三島由紀夫   |      |   |                         | 対面授業  |
| 第15回             | 長崎浩、暴動や叛乱ができる社会こそ、民主的、解放的な社会である   |      |   |                         | 対面授業  |
| 成績評価の基準          | 学校ではなく、大学なので出席は一切とらない。出席点が欲しければ、発言すればいい。<br>講義中にふれた著作、論文などを読み、それらの概念や方法を使って、自分で問いを立てて書くこと。2800字以上。<br>自分がなぜそのように考えるかを、理由や論拠を他から（人や本、出来事など）例にとって引くことで考えていることを言葉にしてみる<br>こと。感想のみは不可となる。<br>レポートは「である、だ」調で書くこと。「ですます」調は不可。   |      |   |                         |       |
| 履修にあたっての留意事項     | 大学での学びにコスパやタイパを求める人には向いていません。<br>学生をお客さまや消費者と思ったことはないし、これからもありません。<br>単に学び逸れる大人の一人としてあつきます。<br>今は活字や本が嫌いでも、これから本を読むことがすきになりたい人に向いています。<br>授業公開の制度には一歳エントリーしない。理由は大学の講義にニセ学生がいるのは当たり前のことだから。<br>和光の教職員は授業公開の制度、仕組みに関わりなく、いつでもわたしの講義を聞いてもらってかまわない。ただし、参加する場合、一声かけて<br>いただく。関係性（ラポール）はあらかじめ、そちらからアプローチして築いていただく。 |      |   |                         |       |
| オンライン授業方式(同時双方向) |   |      |   |                         |       |

|                     |  |
|---------------------|--|
| 型・オンデマンド型)の詳細       |  |
| 【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件 |  |

◆教科書・教材

|               |                   |            |  |
|---------------|-------------------|------------|--|
| 教科書以外に必要な教材費用 |                   |            |  |
| 教科書           |                   | 教科書(ISBN)  |  |
| 参考文献          | 膨大にあるので、そのつど紹介する。 | 参考文献(ISBN) |  |

◆合理的配慮

|                    |   |
|--------------------|---|
| 本学における修学支援基本方針について | <p>本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください<br/> <a href="https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html">https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html</a><br/> 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること</p> |
|--------------------|---|